

箕面市立病院



箕面市立病院
〒562-0014 箕面市萱野 5-7-1
072-728-2001 (代表)
<http://www.minoh-hp.jp/>

産婦人科医師不足が叫ばれる昨今……。同院では医師、看護師、助産師、心強い大勢のスタッフが24時間365日、各科と連携し診療にあたっている。診療体制に加え、スタッフによる誠心誠意のケアが「安心して出産できる環境」を作りだしていた。

地域医療の中核として出産を支える

昭和56年に開院以来、地域の中核病院として箕面の医療を支える『箕面市立病院』。平成22年3月に「大阪府がん診療拠点病院」に指定され、同年11月には「地域医療支援病院」に承認された。21の診療科を有し、病床数は317床。多職種のスタッフが連携して治療にあたる「チーム医療」や、高度医療に挑むべく、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入する等、自治体病院でありながら、先進的な取り組みを積極的に行う、稀有な病院だ。

意外と知られていないのが、他科と違って、紹介状の有無に関係なく「受け

付けている産婦人科。総合病院でのお産は、持病や高齢出産のリスクがある人だけだという印象があるが、同院では特に持病等がなくても大歓迎で、里帰り出産も受け付けている。産婦人科には8名の医師(女性医師は5名)が在籍。院内に産婦人科医と小児科医が常駐し、妊娠中・分娩中・分娩後も、時間問わず迅速に対応してくれる。自身も子育て中の産婦人科医師 佐々本尚子さんは「助産師をはじめ、妊娠中や産後の、スタッフのフォローが手厚いです」と話す。

“安心で安全なお産”
というのを、当院では
第一に考えております



産婦人科
医師 佐々本尚子さん

各科が連携して、 様々なケースに対応

毎週水曜日には産婦人科と小児科、各科の医師・看護師、そして助産師とで合同カンファレンスを行っている。産まれてくる子どもや妊婦の状態、予想される問題や、帝王切開でなくても分娩時に小児科医の立ち会いが必要か等、情報を事前に共有し、協力体制を敷いている。分娩経過に異常がある場合は、新生児に起こりうる異常を考えた準備をし、出生後すぐに必要な処置を行うのだという。出産に立ち会った際は、新生児に異常がないか、出生直後から診察しているそうだ。

診療科や職種の枠を
こえて、連携できている事
も大きいですね



副院長・小児科主任部長
医師 山本 威久さん

出産を経験して、母親の
無条件の愛情、子を守る
気持ちが分かりました



小児科
医師 木島 衣理さん

新生児の容態は、時間の経過により悪化することが多く、早急な対応が欠かせない。小児科の他にも、他科の受診が必要な場合は、眼科や耳鼻科、形成外科等の医師が診察する。あらゆるケースに対応できる、安心のバックアップ体制は総合病院ならではだ。

安心度に、満足度を 食事でプラスしたい

食事、使用食材から食器まで、産婦人科は特別だ。「病院の食事は美味しくない」。そんなイメージを変えようと、栄養部と産婦人科とで話し合ったのだという。出来るだけ専門のクリニックに追いつこうと、通常3週間サイクルの病院食も、産婦人科で出される料理は1週間ごとにメニューが組み替えられる、別立ての調理になった。和食、洋食、中華、毎日飽きのこないメニュー構成、そして産婦人科病棟の看護師からの要望を取り入れた「野菜たっぷり」の料理が並ぶ。3時のおやつも、授乳婦には凝った和菓子や洋菓子が用意されている。

出産後は、病院からのお祝いとして、ホテルの元料理長プロデュースの「フレンチミニコース」がプレゼントされ、家族と共に食事が楽しめる。普段の食事の充実もさることながら、院内レストランで食べられるこの家族会食サービスは好評で、「食事が良かった」という感想が多く寄せられるようになったそうだ。

食事でも満足度が
あがるよう
色々と企画しています



栄養部 部長
管理栄養士 篠木 敬二さん

いつでも相談できる 私たちがいる

ベテランの助産師が
多く、経験値があるので、
色んなものが提供できる
引き出しはあります



産婦人科 看護部長
助産師 西島 律子さん

「温かく、手厚い。そして心強い」。同院を取材していく中で感じた印象だ。あらゆる診療科との連携、そして何より、妊娠から出産までの長期間、妊婦一人ひとりにベテラン助産師と看護師が寄り添っている。保健指導の他に「助産師外来」でじっくり1時間、話を聞いたりエコーを見たり、骨盤ケアや、退院後には電話でフォローする。「すこやか教室」という育児サークルでは、抱っこポジションをはじめ、子育てをしやすくするコツを伝えたり、相談にも答え、協力を惜しまない。「出産で悩むのは当然のこと。いつでも支える人が、私たちがいるよ」というのが伝われば。看護師長の西島律子さんの言葉が心に残った。

どういうふうに産みたいか、
育てたいか、話しやすい雰囲気作りを
心掛けています



産婦人科
助産師 野崎 里美さん 助産師 横山 しずかさん



1 同院で出産した人にはアルバム、おくるみ、スキンケアオイル等の「お祝いセット」が贈られる。おくるみは2011年の開院30周年の記念品として作成し、現在も人気。2 分娩室だけでなく、詰所でも胎児の心拍数が把握できるようになっている。3 看護師、助産師は急な処置にも対応できるようしっかりと人員が確保されている。4 好評の「フレンチミニコース」

